

## 一〇〇枚の絵はがき

大本 茉弥

私は絵を描くことが大好きです。学校で勉強したり、友達と遊ぶことなんかよりも、私にとっては楽しいことです。ある日、私は思いつきました。

「絵を誰かのために描いて、渡したらどうだろう」

今まで、私は自分のための絵しか描いてきませんでした。でも、自分の絵を他の人に見せ、喜んでもらえたら嬉しい、という気持ちが湧き上がってきたのです。それはきっと、自分の心に感謝の気持ちが芽生えたからだと思います。

私は暗くて、友達がいない。学校では、皆のように楽しく会話が出来ない。こういう悩みを隠しながらも、私は学校に通い続けてきました。しかし、ある先生が

「あなたの能力はすごい。本の知識もあるし、絵も描ける。英語だって話せるのだから、自分に自信をもっと持ちなさい」

と言ってくれました。その先生は、外国語を担当しているALTの先生で、私が一番仲良しの先生です。私はこの言葉を聞いて、自分に自信を持って自分出来ることを続けよう、と思いました。

私の住む地域にも雪が降り始め、いよいよ冬休みが始まる季節となりました。その頃、私は年賀状を出そうと決めました。その年賀状とは、私だけが作れる特別な年賀状、つまり私の絵を裏に描いた年賀状を出そうと決めたのです。大切な人に私の絵はがきを渡して、喜んでほしい、そんな気持ちが私にはありました。そして私は早速いろんな人に絵はがきとしての年賀状を作り始めました。

一番のお世話になっているALTの先生には、今まで挑戦したことが無かった印象派の絵画を描きました。とても柔らかな色合いと、優しい印象が先生にぴったりだと思ったのです。また、クラスと一緒に居てくれる二人の同級生にも絵はがきを作りました。どちらもシールやペンを使って、イラストと感謝の言葉を合わせて記しました。他にも、絵画の先生や絵はがきのコンテストにも自分の作品を贈りました。私の絵はがきを受け取った皆は、笑顔を見せて喜んでくれました。額縁に入れてくれた人もいて、私は驚きましたが、とても嬉しかったです。

私はまだ一〇枚ほどしか絵はがきを渡せていませんが、これからも自分との関わりを持ってくれる人に対して、絵はがきを作っていこうと思います。そして、一〇〇枚の絵はがきを渡すことが私の目標です。一〇〇枚の絵はがきを渡すまでに私はどれほどの努力をし、どんな人に出会うかは分かりません。しかし、自分の絵はがきを受け取って喜んでくれる人がいる限り、私はこれからは絵はがきを作っていこうと思います。本棚の横に並べてある鮮やかな絵の具が尽きるまで。